

Rotary

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Serve To Change Lives



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 倉 井 章

幹 事 渡 邊 和 裕

会報・雑誌委員長 原 賢一

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2926号 2021年10月5日(晴れ) 第13回例会 会員数114名

ハイブリッド例会

点 鐘 倉井 章会長
司 会 副SAA 飯村会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇持ち帰り弁当



会長挨拶

倉井 章会長

こんにちは。会員の皆様には大変久しぶりにお会いすることが出来ました。先月30日をもって全地域の緊急事態宣言等が解除され、8月3日から2ヶ月ぶりの会場及びオンラインによるハイブリッド例会です。以前であれば当たり前のface to faceの例会が出来ましたこと大変嬉しく思います。栃木県の3日の感染は9人で、10人を下回るのは6月13日以来、約4ヶ月ぶりだそうです。今後、コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、会場レイアウト及び食事等考えたいと思っております。また、各委員会開催は、人数、会場等を十分に考慮の上、ご検討よろしくお願い致します。

10月は「地域社会の経済発展月間」です。仕事があっても1日1ドル25セント未満の生活を送る人々が全世界で14億人いると言われております。ロータリアンは、こうした人々に生産的かつ十分な仕事の機会をつくり、経済と地域社会の発展を目指す奉仕プロジェクトを実施しており、これが、ロータリーの6つの重点分野の一つとなっています。貧しい地域で、特に女性をはじめ、地元企業家や地域リーダーの育成を応援しています。ロータリアンは「人」に投資し、地域社会や人々の暮らしに持続可能で測定可能な改善をもたらす、地域社会の経済発展を促すため「貧しい地域社会の経済発展を促すための人々の能力・スキル向

上」「生産性の高い仕事の創出」「支援が行き届いていない地域社会での貧困の削除」「経済と地域社会の発展に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための奨学金支援」など、世界各地でさまざまな取り組みを実施しています。

最近、日本でも貧困が深刻化している報道があります。この状況は、不況であった経済的な問題や、現代社会の様々な変化、人口推移など多種多様な要因が絡み合っており生まれております。貧困には「絶対的貧困」(絶対的貧困は生活を維持していくことが難しい状態)と「相対的貧困」(その国の生活水準や文化水準を下回る状態に陥っている)がありますが、日本で言う貧困は相対的貧困に当たります。日本は経済大国の中でも特に相対的貧困が高いとされ、2016年に発表された世界の貧困率における日本の位置は14番目の15.7%で、先進国の中で中国やアメリカに次いで3番目の高さです。また世帯構造別で言えば、ひとり親世帯の貧困率は2015年で50.8%と、ひとり世帯のおよそ半数が貧困状態であると報告されています。

さて、本日は、船田元会員に「コロナ禍を乗り越えて」として会員卓話をお願いしております。令和3年10月4日、衆参両院にて首相指名投票が行なわれ、岸田文雄議員が、伊藤博文初代内閣総理大臣から数えて第100代内閣総理大臣として指名されています。政権を「新時代共創内閣」と名付け「私が目指すのは新しい資本主義の実現だ」と述べ、成長戦略とともに富の再分配を重視する考えを強調。「新しい資本主義実現会議」を設置し、ポストコロナ時代の経済社会ビジョンを策定する考えを示しています。岸田首相の特技は、人の話をしっかり聞く事とのことで、しっかり国民の方に耳を傾けて頂きたいと思っております。4日に召集された臨時国会は、会期末の14日に衆議院を解散し、衆議院選挙を19日公示、31日投開票

の日程で行なう方針のようです。船田会員も慌ただしい中、ありがとうございます。来週は会員増強例会です。“each one, bring one”の精神で一人が一人の新会員候補者を掲げて頂きたいと思っております。



新会員紹介



紹介者 塚越会員増強委員長
氏名 関口 泰成 (せきぐち やすまさ)
年齢 58歳
事業所名 株式会社ミナミハウジング
役職 代表取締役
職業分類 不動産業
所在地 〒320-0844 宇都宮市菊水町6-15

電話番号 028-610-0511

FAX番号 028-610-0512

推薦者 渡邊 和裕会員 塚越 淳史会員



幹事報告

渡邊和裕幹事

- ◇ロータリーレート 10月は1ドル112円
- ◇ガバナー事務所より 地区委員の推薦依頼あり
- ◇石田ガバナーより預かったRI会長ビジョン声明(名刺サイズ)をレターBOXに配布



委員会報告

◇親睦委員会 谷田部委員長

<誕生祝い・10月>

会員誕生

片山 幸志、菊地 正幸、小石 敬信、
宮下 浩、野口 忠男、野添 将嗣、
小尾 功、大木八千雄、関口 泰成、
相馬 克美、田村 哲男、田崎 信孝

各会員

夫人誕生

石塚 増男、菊地 憲寿、永井 泰幸、
野添 将嗣、大関 国明、関 元明、
床井 光雄、山本 修一

各会員の奥様

◇スマイルボックス委員会 野添副委員長

倉井 章会長

本日2ヶ月ぶりのハイブリッド例会です。会員皆様の元気な顔が見られて会長・幹事嬉しく思います。次週もご来場お待ちしております。

渡邊和裕会員

2ヶ月ぶりの会場例会で大変嬉しく思います。残り9ヶ月もよろしくお願いいたします。

「3分間スピーチ」

金田 剛会員 (米山奨学会委員長)



皆さん、こんにちは。私は1962年生まれです。今日は何を話そうかと思いましたが、私と言えば泉町かな、ということで「泉町と私」というお題でお話させていただきます。私の生まれは、もともとは本町で、3歳か4歳位まで泉町の近くに住んでおりました。泉町には芸者さんの置屋が多数あります。親が忙しかったため、置屋に預けられ、遊んで貰っていました。そういうことがあり、どうしても泉町から離れられない私です。コロナ禍になって、泉町も疲弊しております。このままでは、泉町の歴史と文化の灯が消えてしまうのではないかと危惧しているところでございます。緊急事態宣言も明け、まだまだ気を許す段階ではないと思いますが、これから先、泉町を守るため、足を運んでいただければと思います。それが日本の経済の根幹を成すものと、私は信じております。よろしくお願い致します。最後に一言だけ、米山特別寄付の方もよろしくお願い致します。

※次回3分間スピーチは薄井 晃会員

「ポール・ハリスとロータリー」動画鑑賞
— 第3章ポール・ハリスの沈思黙考(後半) —
※『ロータリーの友』HPのアニメーション
動画配信より



卓話

「コロナ禍を乗り越えて」

船田 元 会員



皆さま、こんにちは。コロナ禍の中 Zoomで参加することが多かったのが、久しぶりでございます。コロナの状況は、9月に入ってから新規感染者も減ってまいりました。昨日は東京で100名を下回り、栃木県も一桁になりつつありますが、コロナがなくなったわけではありません。自分自身の行動制限をかけ、気をつけるのが良いと思います。また、ウイルスは乾燥に強いと言われております。今年の冬、

第3波が猛威を振るいましたが、今年も第6波がくる可能性が高い、と専門家の中で言われておりますので、気をつけていきたいと思っています。

感染症という、昔を遡るとコレラやペストが流行った時代もありました。近代国家になってからは、1918年から3年間猛威を振るったスペイン風邪が有名です。スペイン風邪はスペインの国内で流行っていたのではありません。当時は第一次世界大戦で、アメリカ軍の駐屯地の中で流行はじめたという記録が残っています。スペイン風邪の流行が、第一次世界大戦の終戦を迎えるきっかけになったとも言われています。感染症が歴史に影響をもたらすということだと思います。我々、新型コロナウイルスで大変な思いをしています、ワクチンの遅れや感染防止の方法が良かったのか、きちんと検証し、新たに感染が起った時のために、つぶさに記録を残しておかなければならないと、改めて感じました。人類の歴史はまさに感染症との闘いで、歴史の中にずっと刻み込まれていくことだろうと思います。自然界にはまだまだ未知のウイルスが数多く存在していると言われております。今回は中国の武漢でのコウモリに寄生していたウイルスが、何らかの拍子で市場に出回り、それが世界に広まったと言われております。今後、感染症が起るとすれば、たとえば、シベリアのツンドラの永久凍土の中に未知のウイルスが含まれているとも言われており、地球温暖化によって永久凍土が解けて、ウイルスが人間に悪さをするといったことも考えられます。そういった時の我々の備えを、しっかりしなければいけないと思っています。

日本では、ワクチン接種開始が少し遅れてしまいました。政府の対応が悪かったということもありますが、もうひとつの理由としては、国産のワクチンが出来なかったこともあると思っています。日本の製薬技術は世界に匹敵する、と私は思っていたのですが、なかなか出来なかったのは、日本人の治験者が集まらず、治験がしにくかったことで薬を作る手続きが進まなかったことや、厚労省がサリドマイドや血液製剤などの薬害を起してはいけないという抑制反応があり、なかなか承認しなかった、そういったことが原因だったかもしれません。新薬の開発には手間もかかり、投資もしなければなりません。出来ればそういった部署をきちんと作って、未知のウイルスやこれから流行るかもしれないウイルスに向けて開発を続ける、薬開発のアイドリングをしておく必要があるのではないかと感じております。

経済は、接客業を中心として、非常に痛んでしまいました。飲食店はもちろん、旅行関係、旅館、ホテル、イベント経営、様々な分野に痛みが残ってしまっています。飲食店に関しては、時短協力金ということで県や市から出ましたが、まだまだ十分では

ないと思っています。昨年は、持続化給付金、家賃補助、雇用調整助成金の特例措置を行ないました。現在でも雇調金の特例措置は継続していますが、日本経済を立て直すためにはまったく量的に足りていないと思っています。岸田内閣におきましては、数十兆円規模の補正予算を年末に組んで、各種の給付金や支援金を少し整理して、規模別にきめ細かく支給していくということ、或いは、賛否両論はあるのですが、Go To キャンペーンをコロナが落ち着いている状況の中で、改良版として再スタートを切らせることが必要ではないかと思っています。

教育の分野では、私も学校を経営していますが、昨年から今年にかけて、大変、苦勞いたしました。昨年の3月～5月に臨時休校があり、生徒、児童達には本当に可愛そうな思いをさせてしまいました。なんとか、オンライン授業をと、教員達もだいぶ取り組んだのですが、初めてのことで負担も大きく、また、どんなにうまくオンライン授業をやっても、対面授業にはかないません。しかし、万が一、また学校が閉鎖ということになった場合はすぐにオンラインに切り替えられるようにする、或いは、遠隔地で授業に参加しにくい生徒が出てきた時には、対面授業とオンライン授業を平行しておこなうことも、我々はしっかり準備をしたいと思っています。スローガンとしては「教育を止めるな」です。今後とも、教育の機会を絶対に失わせないようにしたいと思います。運動会、文化祭、修学旅行等、昨年から今年にかけて中止した行事もあり、年中行事で「経験する」ということが出来ませんでした。今年の春に卒業した生徒の卒業アルバムに、載せる写真が無い、少ない、と言われてまして、我々も大きな責任を感じてしまいました。今、コロナが少し落ち着いた時に、中止や延期をした学校行事をやっているかと努力を続けている、そんな状況にあります。子供達のために頑張っていきたいと思っています。

コロナを乗り越えて、ポストコロナ、と言いたいのですが、当面はウイズコロナ、コロナとどう付き合うかということを考えながら、日本経済も政治も動かしていかなければいけないと思っております。

